

森のコホさん美容室

奄美市立宇宿小学校

四年

竹山 たけやま 那奈 なな

「ホォーホォー、いらっしやいませ。カットにカラー、メイクやネイルもおまかせください。」

宇宿の森には、深夜になると開店する美容室があります。リュウキユウコノハズクのコホさんのお店です。毎ばん、いろんなお客さんがやってきます。

さっそく、アカショウビンのウタさんが来ました。

「ホォー。今日はどうしますか。」

「朝から、新曲のプロモーションビデオのさつえいがあるの。セットと、ばっちりメイクをお願いするわ。」

ウタさんは島で人気ナンバーワンの歌手です。

「かしこまりました。」

ウタさんのほっぺをコホさんがブラシでくるくるつとすると、ウタさんの赤い羽にきらきらとした金色のラメが入りました。それはまるで太陽にてらされたマンゴーのようにかがやきました。

「ありがとう。今日も、がんばれるわ。」

ウタさんが、鼻歌を歌いながら帰って行くすがたを見て、コホさんはニッコリしました。

森の美容室には、毎年秋になるとやってくるじょうれんさんがいます。サシバのピクイさんです。

「ひさしぶり。今日は、つめを整えてほしいの。」

「ホォー。かしこまりました。たくさん飛んで、おつかれでしたね。ゆつくりしていただくさいね。ネイルはどうしますか。大島つむぎのたつごうがらはどうですか。」

「それがいい。来週、宇宿小学校の運動会のおうえんをしに行くの。おしやれしていねすりおどりを見るのがとっても楽しみ。」

ピクイさんのとんがったつめに、オシヤレなつむぎがらが入ると、羽をばたばたさせて大よろこび。

「わあ。気分が上がるわ。宇宿の子たちに早く見せたいな。春に帰る前にも同じのをやってね。友達にじまんしたいの。」

スキップしながら帰るピクイさんを見て、コホさんも、気持ちがルンルンしました。

ある日、コホさんがいつものようにお店を開けるじゅんぴをしていると、

「ここがコホさんの美容室ですか。」

真っ黒い体のお客さんがたずねて来ました。そのすがたを見て、コホさんの体はぶるつとふるえました。なぜなら、コホさんはカラスが大の苦手だったのです。それも

の屋をしていたおじいちゃんのおじいちゃんが、

「コホ、わしはむかし真つ黒だったカラスからむずかし
いもようや色まぜの注文をうけたんじゃ。わしなりに
がんばったつもりだったんじゃが、なかなかきれいに
はでしかなかった。そしたらカラスが、すぐおこって
帰ってしまった。カラスには気をつけなさい。」

と話してくれたことがあったのです。

「島一番の美容しさんって聞いて来たんだけど、どうし
てもお願いしたいの。」

カーコさんというカラスは、必死にお願いしています。

「どんな感じがごきぼうなんですか。」

コホさんは一度落ち着いて聞いてみました。すると、カ
ーコさんは写真を見せながら、

「こんなカラーにしてほしいの。まるで水平線にしずむ
夕日みたいできれいでしょ。」

それは、鹿児島県を代表するモデル、ルリカケスのルー
リーさんでした。

「ホオー。ルーリーさんのようにするには、まずは金ば
つにしてから、赤、青、白の色を順番に入れていくん
ですが、黒色をぬく時に少ししみるかもしれません
よ。」

「だいじょうぶ。オシャレにはがまんが必要よ。さあ、
早く早く。」

コホさんはあわててじゅんびし、カーコさんの羽に葉
ざいをていねいにぬり始めました。

「ギャアー、しみる。ギャアー、いたい。」

カーコさんは、宇宙中にひびく大きな悲鳴を上げていま
した。みるみるうちに黒色は、金色になり、色を入れる
と体は赤く、顔とつばさは青、足とくちばしは白く変身
していきました。本物とくらべると、ひと回り大きくて、
少ししつぽが短いけど、ギャアギャアといったがって鳴く
声は、ルリカケスそっくりです。

「ホオー。出来あがりましたよ。だいじょうぶでした
か。」

かがみにうつったカーコさんは、あやまるみさきにしず
む夕日色になっていて、なみだを流しながら大よろこび
です。その様子を見て、コホさんはホオーっとひと安心
です。

またこんばんも、コホさんの美容室には、変わった注
文のお客さんがやって来ます。宇宙の森にいる鳥をよく
かんさつしてみてください。もしかしたら、キラキラ光
るアカショウビン、つむぎネイルのサシバ、ルリカケス
に変身したカラスに会えるかもしれませんよ。